

「地域」と「人」を軸に 大学がまちづくりを牽引



『大学まちづくり—地方創生

担い手不在を覆す』

矢作尚久、田中克徳、
ジョン・メツラー 著

(発行:日本ビジネスプレス、
発売:ワニブックス・2200円 税込)



渡部 晶 わたべ・あきら

1963年福島県平市（現・いわき市）生まれ。京都大学法学部卒。1987年大蔵省入省。財務省大臣官房地方課長、沖縄振興開発金融公庫副理事長、財務省財務総合政策研究所長などを歴任し、2024年7月退官。いわき応援大使、2024年3月放送大学大学院修士（学術）、日本政策投資銀行設備投資研究所上席主任研究員。

地域振興における大学の役割はますます重要になるなか、まさにドンピシャの本が著わされた。著者は大手デベロッパーで「まちづくり」に取り組んだ後、現在は地域イノベーションをテーマに長野大学で研究教育活動をしている田中克徳氏、日米のビジネスやコンサルティングに経験豊富で、UCバークレー校のスクール・オブ・ビジネスで研究教育活動をしているジョン・メツラー氏、医学博士で現役の小児科医として活動しつつ、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで社会システムデザインの研究に取り組む矢作尚久氏の3氏である。

本書の構成は「序章 大学と地方創生と教育と（矢作氏）」「第1章 地方の課題と現状と『大学まちづくり』事例（田中氏）」「第2章『大学まちづくり』の実践—長野大学で誰を巻き込み、どんなアクションをしているのか（田中氏）」「第3章 大学まちづくり×集積のメカニズム（メツラー氏）」「第4章『大学まちづくり』を成功させる5つのポイント（田中氏）」「終章 構想と現場の力（矢作氏/メツラー氏/田中氏）」「おわりに」である。さまざまな視点が盛り込まれているが、一貫して「大学まちづくり」とは「大

学が地域社会と連携し、人材や研究資源などを地域に開放し、また必要により有効な教育プログラムを提供するなど、包括的なコーディネート機能を担いながら、新たな価値を創造し、地域を活性化する取り組み」とされている。

なかでも示唆に富むのは、公的な補助金に頼るのではなく、「地元の名士や篤志家がお金を出しつつ、そうした方々が10人くらい集まって、だんだんと大きな活動にしていくほうが、日本人の特性にも合っていて、現実的」（矢作氏）という洞察だ。加えて、田中氏が第3章で紹介されたアメリカの事例も踏まえ、成功のポイントを5つに整理。そのうえで「つまるところ、地方創生の焦点、そしておそらく日本が直面している多くの課題において、行き着く先は常に『人』というテーマに集約」されるとし、「どのような志をもった人たちと共に歩み、その力を引き出していけるかという問い」に、大学が応えられるかにかかっている、と喝破する。いよいよ、日本の大学も「象牙の塔」から真に大きく変わらなくてはならない段階にきていることを痛感した。